

# 棚田LOVER's 通信

創刊号

2009年6月 NO.1

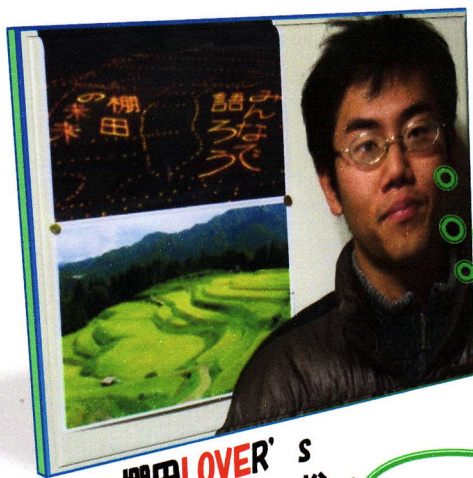
～棚田を愛し、棚田を育む 未来の子どもたちのために～

発行：棚田LOVER's(ラバーズ)

(棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的とする有志団体)



棚田LOVER'sメンバー  
からのメッセージ



棚田LOVER's  
理事長 永菅裕一

## 美しい棚田を将来に

「あと5年で、棚田がなくなってしまう!？」  
という地域の方の生の声を聞き、  
「美しい棚田を将来につなげたい!」と思い、  
棚田LOVER'sの活動を始めました。

## 棚田や課題を知ってほしい

棚田とは、山の斜面や谷間の傾斜地に  
階段状に造られている水田のことで、  
食料自給率が40%と非常に低い中、過疎化・  
少子高齢化・労働力不足・赤字の経営・  
鳥獣被害等により  
放棄され、失われている現状があります。

## 感謝・愛の気持ちを大切に

この通信によって、一人でも多くの方に  
感謝や愛の気持ちを伝えたいと思っています。  
今後もより良い活動を目指して努力していきます。  
ご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

## 棚田LOVER'sとは?

棚田LOVER'sは、2007年5月に立ちあがった有志団体です。  
棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的として、  
兵庫県市川町、神河町、香美町、姫路市、佐用町、神戸市で  
田植え(5月)・稲刈り(9月)・試食会等の活動をしています。



**7月18日(土)そば打ち・かかし作り☆参加者大募集☆**

**7月25日(土)、26日(日)フォトコンテスト、花火大会見学、草木染め**

(詳細は別紙チラシをご覧ください)

**5月9日(土)、5月23日(土)田植え体験終了しました☆**

(詳細は別紙報告資料をご覧ください)



## 有機農業講座開催 ～農・食・環境のつながりを感じませんか？～

5月19日(火)19時～21時に「これからは有機農業の時代～農・食・環境をつなぐ有機農業とは～」と題し、講師に本野一郎さん(兵庫県有機農業研究会理事長)を招き、第1回目の有機農業講座を姫路にて行いました。

### 講座の報告

聴講者は農業に携わる方から、農産物を用いる仕事をされている方、主婦、学生の全9名となりました。

お忙しい中、ご参集いただきありがとうございました。

「持続可能性」や「循環型」という言葉は、21世紀のキーワードになっています。

では、現代の農業は持続可能なものなのでしょうか？

化石燃料や化学肥料、農薬を使う農業は持続可能ではありません。

そこで、脚光を浴びているのが持続可能な有機農業や循環型農業です。今回は埼玉県小川町で有機農業をされている金子さんの事例と、フランスでのCSA(地域で支える提携の農業)の事例をあげて、有機農業の重要性と食糧自給を中心とした循環型の社会のあり方について、本野さんにお話ししていただきました。

小川町の金子さんの霜里農場では、太陽電池やバイオガスプラントでエネルギーを自給し、さらに同農場から大豆を仕入れている豆腐屋から出る揚げ油をトラクターの燃料に、おからは堆肥に利用しています。有機農業を中心に地域で資源循環の輪ができています。また、同町の下里地区では米や大豆、小麦がすべて有機栽培になったそうです。

CSAとは、地域の消費者が地域の農家から農産物を直接購入する「提携」の仕組みです。お互いの顔が見える関係の構築、流通コストの低減、農家の収入安定などの利点があり、合理性と消費者との距離を両立するもので、有機農業を普及・支援するために有効な手段です。

講座終了後は、ACQUA(アクア)にて今回参加された牛尾さんの有機野菜を頂きながら交流を深め、意見交換をしました。また、第2回の講師である武内さんと牛尾さんとの間で、おからと野菜を提供し合う輪が有機農業講座で生まれたいことを嬉しく思います。

<参考ウェブサイト>

姫路ゆうき野菜の会 <http://yukiyasai.s184.xrea.com/>  
霜里農場 <http://www.shimosato-farm.com/>

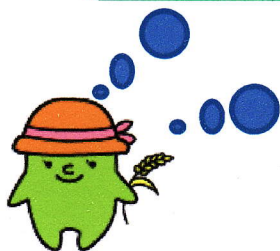


### さとっちの有機農業

オーガニックビジネスプランナーの鈴木さと子さん(さとっち)が有機農業の最近の話題や魅力を話します。

#### 自己紹介 さとっちと棚田

5年ほど前、あるNPOの活動「棚田オーナー」に参加。手作業の積み重ねが美しい景観とおいしいお米を作っていることを実感しました。いつかは家族のお米くらいは作れる人になりたいと思っています。みなさん、どうぞよろしく！



#### 補助金使う？使わない？

今年2月ころからは補正予算for「有機農業」の話題がしばしば届く。国が景気対策として農業周辺の雇用に注目しているからだ。景気対策の補正予算はいわゆる「ばらまき」だ。一方、有機農業界も手弁当の時代から公的資金を利用し、自立した事業を作り継続的に運営して行く時代に移行した。いかにイニシアティブ発揮し国費を有効利用するか、今、業界の手腕が試されているのは確かだ。



## がっちり(本格的に)野菜・棚田も学び隊報告

### 農業を学び、自給自足の一步を



4月22日(水)に兵庫県市川町の牛尾農場、川上農園、棚田の見学会・作業を行いました。  
有機農業の魅力の説明していただき、おいしい卵かけごはんも食べました。  
次回は7月15日(水)に野菜の定食や収穫、草引きなどを行いますので、ぜひご参加ください。

### 【なごみの棚田レシピ☆】 【新玉のバルサミコ酢ソテー】

#### 【材料】

新玉葱: 一個、えのき茸: 半株、バルサミコ酢: 大さじ1、醤油: 大さじ1、オリーブオイル: 大さじ1

#### 【作り方】

1. フライパンを熱し、オリーブオイルを入れる。
2. くし切りにした玉葱を炒める。
3. 玉葱がしんなりしてきたら半分に切った えのき茸だけを入れ、全体に火が通ったら A.を入れて全体からめる。
4. お好みで針唐辛子を上に乗せると、見た目もよく、味のアクセントにもなります。

☆ 棚田TIMES ☆ 5月15日号 引用 棚田むすびの会 会長 扇田久美子

### 牛尾さんの温故知新

#### もう一つの生き方

有機農業を約30年間されている牛尾武博さんが  
今旬の野菜や作物を紹介します。

日本の農業は輸入の拡大と農作貧乏で、政府・産業界が推進してきた大規模経営農家さえ、追いつめられている。このままでは日本の農業は減ってしまう。

農業は地域社会の礎。グローバルな時代にこそ「食糧主権」を取り戻そう。「真土不二」(土地で取れた農作物をそこに住む人々が消費する)の実践こそ。効率だけでなく、もう一つの生き方として農業が光るいま。兵庫県神崎郡市川町で有機農業を営む牛尾武博さん(60歳)にお願いし、思いを寄稿していただく。

### パン用小麦・入梅雨前に収穫

もう20年ほど自家採種で栽培を続けてきたグルテン質を多く含んだパン用硬質小麦「農林42号」と「鴻ノ巣25号」は、今年も入梅雨前に収穫を終え、やれやれだ。

2品種とも、60年ほど前に育種された小麦で、今日ではほんの一握りの農家が栽培を続けている。背が高く、太い茎、大層豪快な姿は、今日、他で栽培されている小麦と比べると、小麦の王者という感じがしている。

小麦の収穫は、入梅雨までに終わないと品質が落ちる。日本で小麦の栽培が拡大しない理由の一つだ。もう10日ほど熟期が早ければ安心して栽培できるのだ。この60年間、熟期の早い小麦の育種は、ほとんど進んでいない。アメリカから小麦を購入し続けるため、農水省は、早生(わせ)小麦の育種をサボり続けてきたと私は考えている。それほど進んでいないのだ。

有機農家であっても、ときにはパンも食べたい。それなら自家産小麦粉で焼いたのを。

麦ワラは稲ワラと違ってストローなので、茎に空気をいっぱい貯め、クッションが大きいし、腐りにくいので、夏やさいの敷ワラにはピッタリなのだ。

60年前にグルテン質を含んだ硬質小麦を世に送り出した農業試験場の技術者の苦労に思いをはせる意味をも込めて、20年間栽培を続けてきた。

となり町にある、かろうじて残ってきた、今どき、たぐいまれな小規模な農家製粉屋さんに、1キロあたり100円で粉にしてもらおう。この製粉では、完全にフスマは除かれない。よって、この粉で焼くパンは、どっしりと重く、口の中に香ばしさがはじける。

こんなパンを食べられるのは、様々な思いのなか、苦労して小麦を栽培し続けてきたからこそだ。もちろん、提携している消費者には少しずつではあるが、買ってもらっている。

2005年7月12日(火) 週刊新社会」引用・参考





## 今回のゲスト



**中崎義志晴さん**

棚田むすびの会代表 (写真左)

**扇田久美子さん**

棚田むすびの会会長 (写真右)

今回のゲストは

棚田むすびの会の中崎義志晴さんと扇田久美子さんです。

棚田むすびの会はフェミニン(女性的)な棚田保全活動を目指されています。

ブログ: <http://tanamusu.earthblog.jp/>

第2回農楽カフェ(食や農の学習・交流会)で

「なぜ今棚田なのか?」～棚田の出会いと実践～と題し、美しく、懐かしくて、切ない棚田への思いを語っていただきました。援農5つのステップとして、

「知」情報・現状を知る。「伝」情報を伝える。blogなどで発信する。「食」棚田米を食べる。「行」棚田へ行く。イベントに参加する。「働」ボランティアに参加しガッツリ働く。という大切さも伝えられました。

棚田むすびの会  
フェミニンな棚田保全活動を



<http://tanamusu.earthblog.jp/>

### <農楽カフェ参加者の感想>

むすびの会、そのお話を聞いて思ったのは、棚田にはお母さんが必要だということ。それは棚田の利益効率、将来を論理的経済的に考えることは重要であるが、なに より肝に銘じるべきことは「何が何でも棚田を守り育てる」という深く確かな母性愛であるということだ。母のような思いやり深い眼差しを棚田に向けるべきだ。まず棚田ありきなだから。(甲南大学 3年生 田畑光一)

次回の農楽カフェは下記の日にて19時～21時まで愛農人で行います。

●7月2日(木)作る住空間～自然派リフォームは自己流で～

ゲスト:大田安紗さん(イラストレーター・ぼちカフェ主催)

ナビゲーター:光岡大介さん(愛農人)

☆井上農園合宿企画☆ 8月15日(土)、16日(日)

農園の作業・座談会・ブルーベリー摘みなどなど盛りだくさんです。

## あーちゃんとしのちゃんの棚田の植物

## 第1回ワレモコウ

東京大学で棚田の植物を研究している出口詩乃さん(しのちゃん)が植物の説明を、神戸芸術工科大学でデザインを勉強している中野綾さん(あーちゃん)がその植物をキャラクター化した思いを語ります。



頼りなさに風にゆれるのっぽの体。茎の先には、小さな赤い花が沢山集まってマッチ棒の先のような形をした花で、愛らしい姿をしています。秋の里山の畦などで見られる代表的な植物の一つで、生け花に用いられてもいます。少し湿って日当たりの良い土地を好みます。農作業をしていて、あるいは、田んぼを歩いていて、出会った方も多いのではないのでしょうか。沢山の植物達の中からひょこっと赤い頭がのぞいていたら、それは彼らかもしれません。



素朴でユーモアのある姿を天然なところのある次女として表しました。頭の水車がカラカラ回るのは元気な証拠



棚田LOVER's通信へのご意見・ご連絡先: 電話: 080-1427-5377 メール: [tanadalove@yahoo.co.jp](mailto:tanadalove@yahoo.co.jp)

編集: 棚田LOVER's(理事長: 永菅裕一)

事務所: 〒679-2326 兵庫県神崎郡市川町谷915 HP: <http://www.geocities.jp/tanadalove/>